ずいそう

単身赴任は楽しい

古 本 尚 吾

静岡県にある家を離れてあっという間に13年が過ぎようとしています。その間に高校生と中学生だった2人の子供たちは，家を離れて家には家内一人きりで住んでいます。

何かさびしいと思われるかもしれませんが，この13年間は今振り返ると大変充実して楽しい月日だったと思います。

単身赴任で6つの町に住むことができました。愛知県安城市，名古屋市，富山県富山市，石川県金沢市，大阪府高槻市，そして今住んでいる北海道札幌市となります。平均して2年間毎に転勤している勘定になります。

まず覚えたことは，洗濯掃除，料理（煮物，焼き物，炒めもの主婦並み？），買い物，ボタン付け，アイロンなど今まで家内にやってもらっていたこと全部です。家内の苦労が少しはわかったような気がします。たまに帰って小言を言われても怒らないようになりました。

次に各地で名所旧跡に行けたことです。印象に残っている所は，愛知県では名古屋城，富山県では八尾の越中おわら風の盆，立山黒部アルペンルート，石川県では兼六園，茶屋町，大阪ではおなじみの新世界，お隣の桜と紅葉の季節の古都京都，札幌では毎週何かの行事がある大通り公園などなど見ることができました。

更に土地土地のうまいものを食べられたことです。味噌煮込みうどん，ひつまぶし，白エビの刺身，お好み焼きですが，なんと言っても北海道は食材の宝庫で，魚介類から肉，野菜と食べるものに事欠きません。その中でもイカの塩辛をじゃがいもに乗せて食べるのにはまっています。おかげで札幌に来てから軽く3キロは体重が増えてしまい，今，体重を落とすことに努力しておりますが，誘惑に勝てず現状維持が精一杯です。

夜の街も印象的でした。名古屋の錦3丁目，富山の桜木町，金沢の片町，大阪の北の新地，そして札幌のすすきのです。各地に代表的な歓楽街があることが大きな楽しみでした。

各地をまわり1番の楽しみになったことは人との出会いでした。

まず，同じ会社であっても赴任先の社員とは初対面で地方毎の方言も混じり打ち解けた会話ができるようになるのに苦労したことです。最初の内は相手もどんな人間だろうと見ますし，こちらも何を考えているのだろうといった見方になり，ぎくしゃくした会話になります。お互いの誤解や衝突も何度かありました。それも最初の内だけで，その後一緒に仕事をし，食事をともにしていくうちにお互いが氷が解けていくように打ち解けていきました。転勤も回数を経験するうちに，この緊張感と，打ち解けた時の楽しさがある種の快感になっていきました。

また，先々の取引先のお客様とも知り合うことができて大変勉強になりました。社内と違い社外では共通の仕事の話もありますが，皆さん気さくにおいしいお店，観光名所，世間の動きと様々な話を聞かせて頂き，逆にその土地に興味を持つことができて好きになっていきました。だれかの詩にもありましたが出会いは成長の種なんだなと思います。おかげさまで地元静岡で仕事をしていた仲間より，転勤先の各地の仲間との連絡のほうが多くなったくらいです。

休日をどのように過ごしているか少しご紹介しておきます。朝5時に起床，2時間程かけて10 km ウォーキング，部屋の洗濯掃除，朝風呂，9時朝食，韓流ドラマを見ながらうたた寝，12時頃から図書館で2時間本を読む，近所のスーパーマーケットで食材の買物，4時から夕食づくりと晩酌開始，8時就寝です。月に1回は，ゴルフ，名所めぐり，映画鑑賞，温泉入浴が入りますので，日によっては過ごし方が変わりますが，家にいては絶対に味わえない過ごし方だと思います。これが13年間変わらず続いています。

最後に家族との関係について記しておきます。子供達の手がかからなくなった頃から家内が単身赴任先に来るようになったことです。長期の休みに来ては自分で調べた観光地を私に案内させて満足しています。以前静岡にいたころにはなかったことです。子供達とも時々会う様になりました。赴任先に遊びに来たり，出張先が近くであれば一緒に酒を酌み交わすことも経験しました。逆に離れているからこその効果であるような気がします。

順風満帆に続いてきたように思いますが1つだけ心配ごとがあります。あと何年かで定年を迎える時がきます。今の充実した毎日が無くなるのと，家内と毎日顔を合わせる生活が戻ることです。これから静岡での充実した生活をおくれるよう今から考えておかなければと。やっぱり単身赴任は楽しいです。

――ふるもと しょうご 日本キャタピラー 執行役員北海道支社長――